

コスタリカ支所から ひとこと

娯楽が少なく、地域への関心も低い地方の若者たちに、映像制作を通して自分や自分の周囲、地域に関心を持ってもらい、健全な育成を促すことがこのプロジェクトの目的です。コスタリカ側のスタッフ2名にトランさんが加わり、企画段階からの細やかな配慮や講座実績の取りまとめに力を発揮しています。



企画調査員(ボランティア事業)*
梅林志帆(うめばやししほ)

* 隊員の活動全般を支援する「ボランティア事業支援のプロ」。また相手国の要望を調査し要請開拓を行うなど、隊員活動全体の運営を行う。

+one information
週末は、朝市へ

週末、各地の公園や駐車場が、色とりどりの野菜や果物で埋め尽くされます。コスタリカの週末名物、朝市です。

所狭しと並べられるカラフルな野菜や果物に、いつもワクワクします。早朝5時ごろからスタートし、お昼前には山盛りだった食材のほとんどが売り切れてしまいます。物価が比較的高いコスタリカでは、多くの家族が値段も手頃な朝市で大量に食材を仕入れるのが習慣になっています。ニンジンにタマネギ、レタス、卵……。大きなカートにこれでもか! と、どんどん食材を入れていく様子はとても爽快です。

南国のコスタリカはとくにフルーツの種類が豊富で、しかも安い! バナナにマンゴー、メロン、パイナップル、加えて日本では見たことがないフルーツもたくさん。当地では、フルーツと水、砂糖をミキサーにかけたフレッシュジュースは食事に欠かせない飲み物です。私のお気に入り、カス(グアバの仲間のフルーツ)のジュース。そのままでは酸っぱくて食べられないのですが、砂糖と混ぜると甘酸っぱく、後味すっきりしたジュースになります。

週末になるとフラッと朝市に出かけて、見たことないフルーツの名前を覚えてもらったり、味見をしてみたり……。コスタリカの人たちの日々の暮らしや食材の豊富さに触れることができる朝市は、私のちょっとした楽しみです。(トランティ 美佳)



イラスト・さかがわ成美



いいカンジ!
そのまま続けて!

スマホ動画で、
自分たちの思いを
表現してほしい

台本に従って撮影。子どもたちは撮影だけでなく、ときには役者としてカメラの前に立つ。

これからも
映像を
作りたい!



講座に参加した子どもたちと。



台本について、子どもたちの相談にのるトランさん(右)。

JICA海外協力隊
がゆく Vol. 12

中米コスタリカでスマートフォン(スマホ)を使った映像制作により中高生の自己表現をサポートしている隊員を紹介します。

in コスタリカ
トランティ 美佳

トランティ・みか 33歳
出身地:兵庫県 職種:映像
任期:2018年6月~2020年6月



配属先である「コスタリカ映画制作センター」が行っている「自分の町を撮影しよう」プロジェクト。地方に住む中学生や高校生に、自己表現力向上のトレーニングとしてスマホでの映像制作を教える講座です。そのサポートが先方からの要請でした。

日本でのテレビ局ディレクターの経験から得た映像撮影の技術や、番組企画から実行までのスキルを生かすことができると考えて協力

隊に応募、派遣が決まりました。ふだんは首都サンホセのオフィスにいますが、月に一度、同僚と一緒に地方の学校へ1週間の出張講座に出かけ、台本作りから撮影、編集も教えています。グループに分かれた子どもたちは、地域の魅力発掘、環境保全やいじめ、ドラッグの問題など多様なテーマで映像を作ります。

コスタリカは教育に力を入れていて、学校の設備も整っているのですが、当初はこの活動への支援が本当に必要なのかと疑問を感じたこともありました。しかし、家庭内暴力やドラッグなどで苦しむ子どもたちも少なくないことがわかってきました。そういう子どもたちが、自分の考えや言葉にできない思いを映像で表現するともに、映像制作を通して新たなつながりや可能性を広げられるお手伝いができると今では思っています。

講座に参加する子どもたちはとても楽しそうに、映像は魅力的。そこで講座の質をより高めるために、的確な事前準備のための資料作り、講座に対する評価を可視化するためのアンケートと報告書の作成、他部署への広報、他機関とのコラボレーションによる講座の知名度アップなどに取り組みました。続けるうちに同僚たちとの間に「次はここをこう改善したらど

うだろう」「こんなことをやってみたいんだけど、どう思う?」など活発な会話が生まれています。自分たちの活動がなかなか評価されないという悩んでいた同僚たちのモチベーションも上がりました。

中高生向け講座のほかにも、指導者育成講座、映像と環境教育とのコラボ、日本とコスタリカの映像交流、日本映画祭の開催を行っています。活動はまだまだ発展途上ですが、子どもたちは自分の作った映像を見て目をキラキラとさせています。そんな表情をもっと増やしていきたいと思っています。